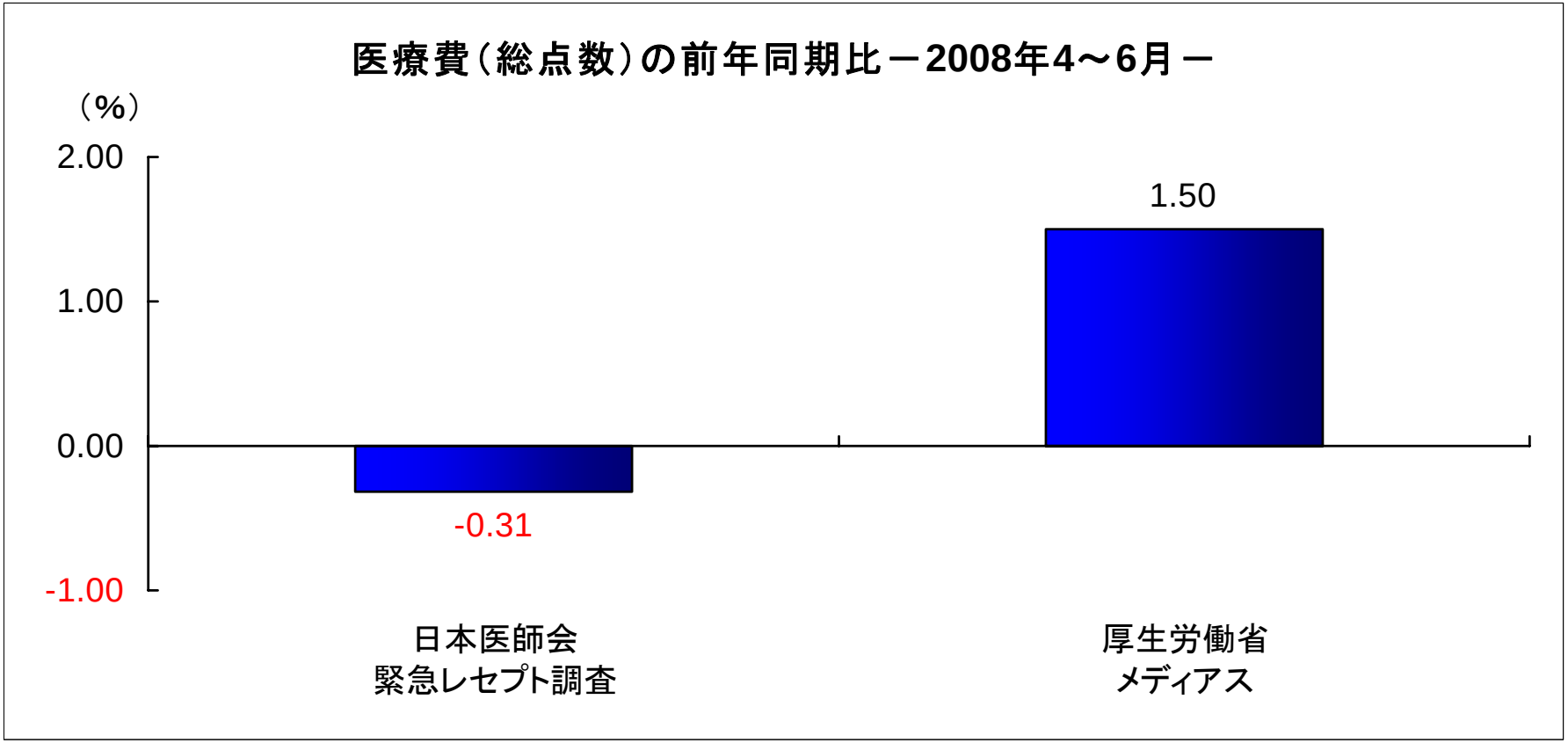
厚生労働省「最近の医療費の動向（メディアス平成20年４～6月）」について

定例記者会見

2008年11月12日

社団法人　日本医師会

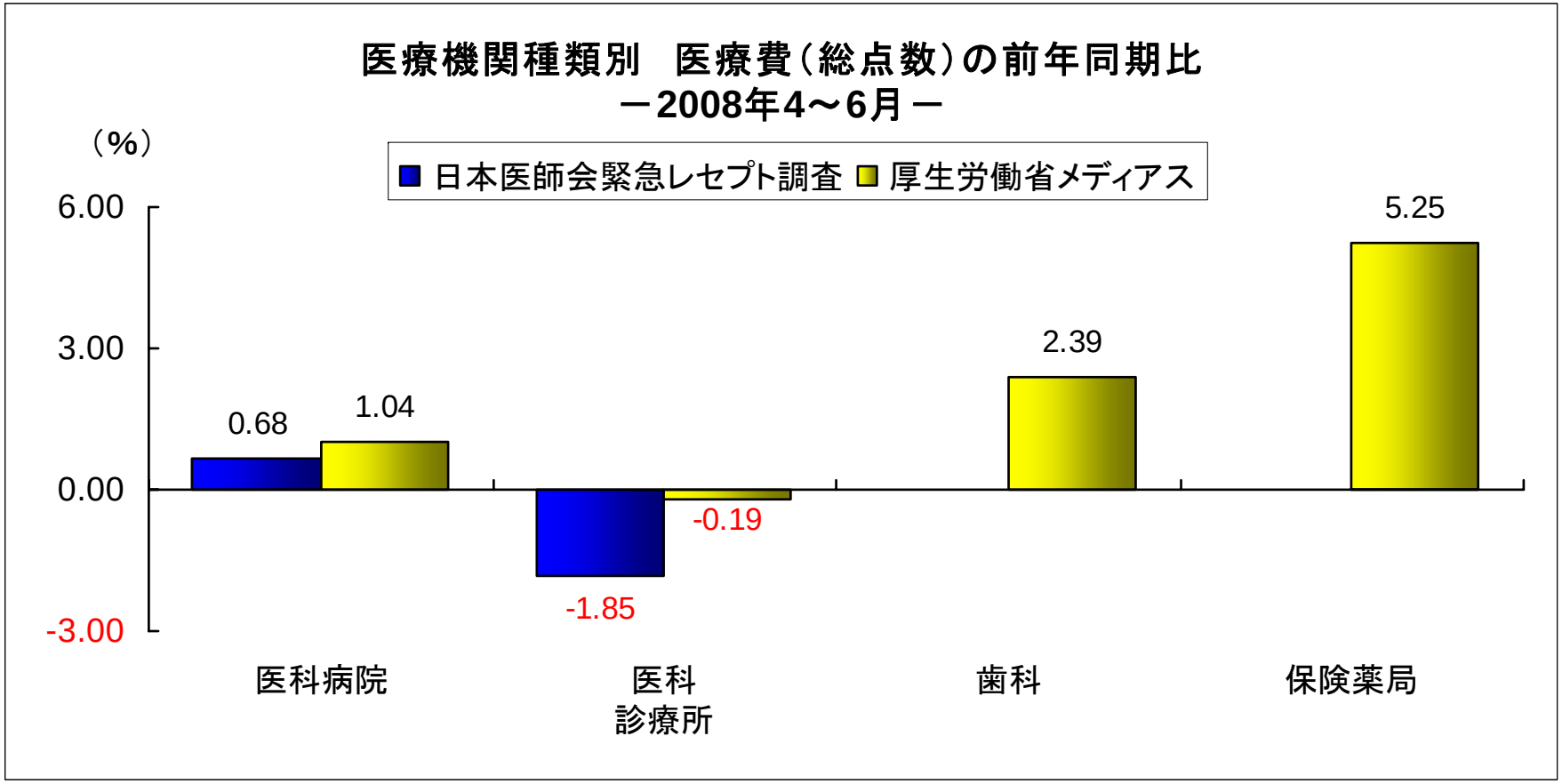
厚生労働省が発表した2008年4～6月の医療費の前年同期比は＋1.50%であった。日本医師会の「緊急レセプト調査」結果は、約1.8ポイント下回っているが、次頁に示すように、日本医師会調査には歯科診療所、保険薬局を含んでいないためである。



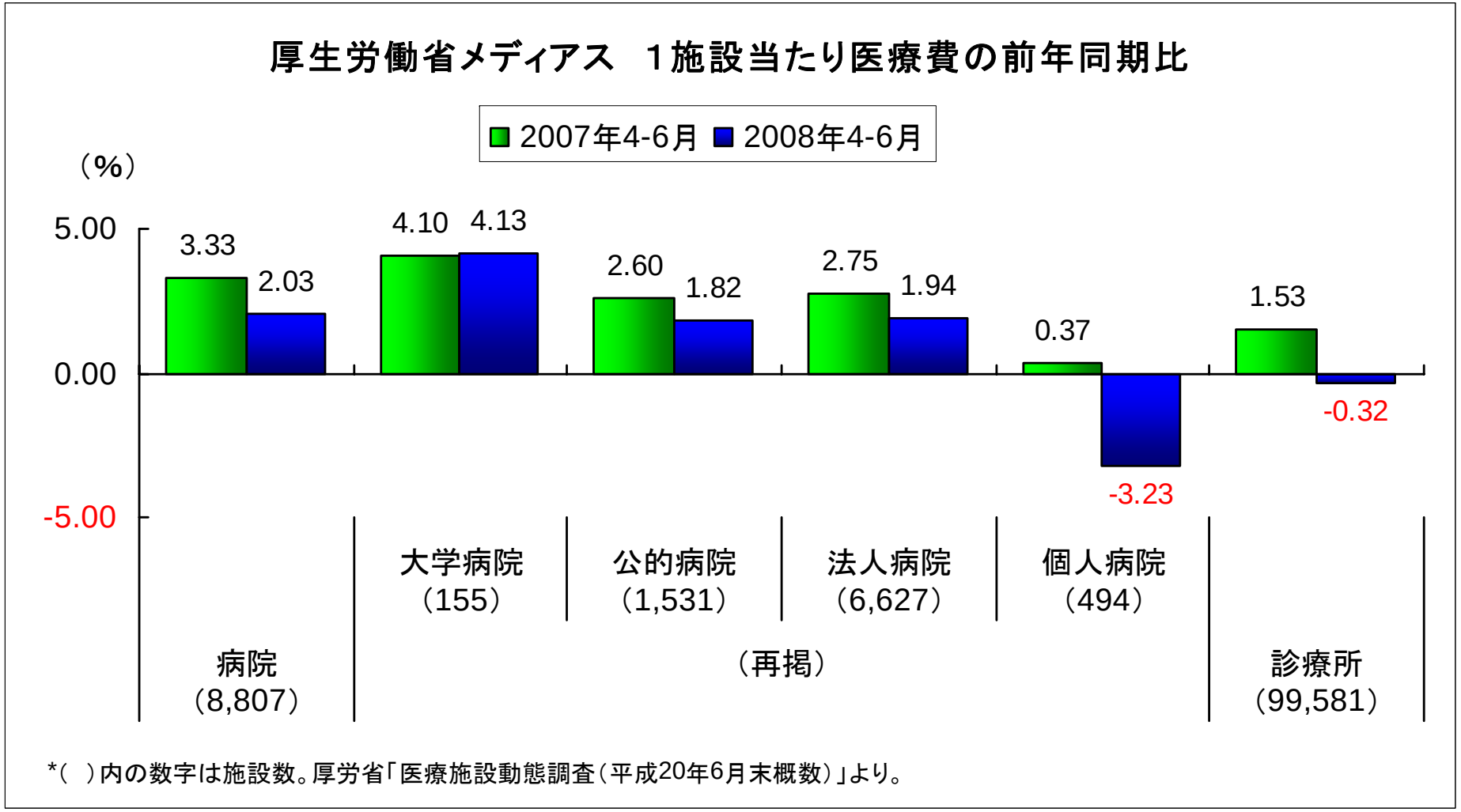
厚生労働省は「医療費は従来と同程度の水準（3%台）で伸びている」*と述べている。2008年度の診療報酬改定率は▲0.82%であったので、医療費は2.18%以上伸びるはずであるが、厚生労働省メディアスでも＋1.50%に止まっている。

*「平成19年度の医療費について」（中医協総会資料、2008年7月16日）

医科のみに着目すると、4～6月の医療費（総点数）の前年同期比は、病院では日医調査＋0.68%、厚生労働省メディアス＋1.04%であった。診療所では日医調査▲1.85%、メディアス▲0.19%であった。診療所は日医調査とメディアスとに差があるものの、いずれもマイナスであり、傾向は同じであった。一方、歯科+2.39%、保険薬局+5.25%とプラス幅が大きかった。

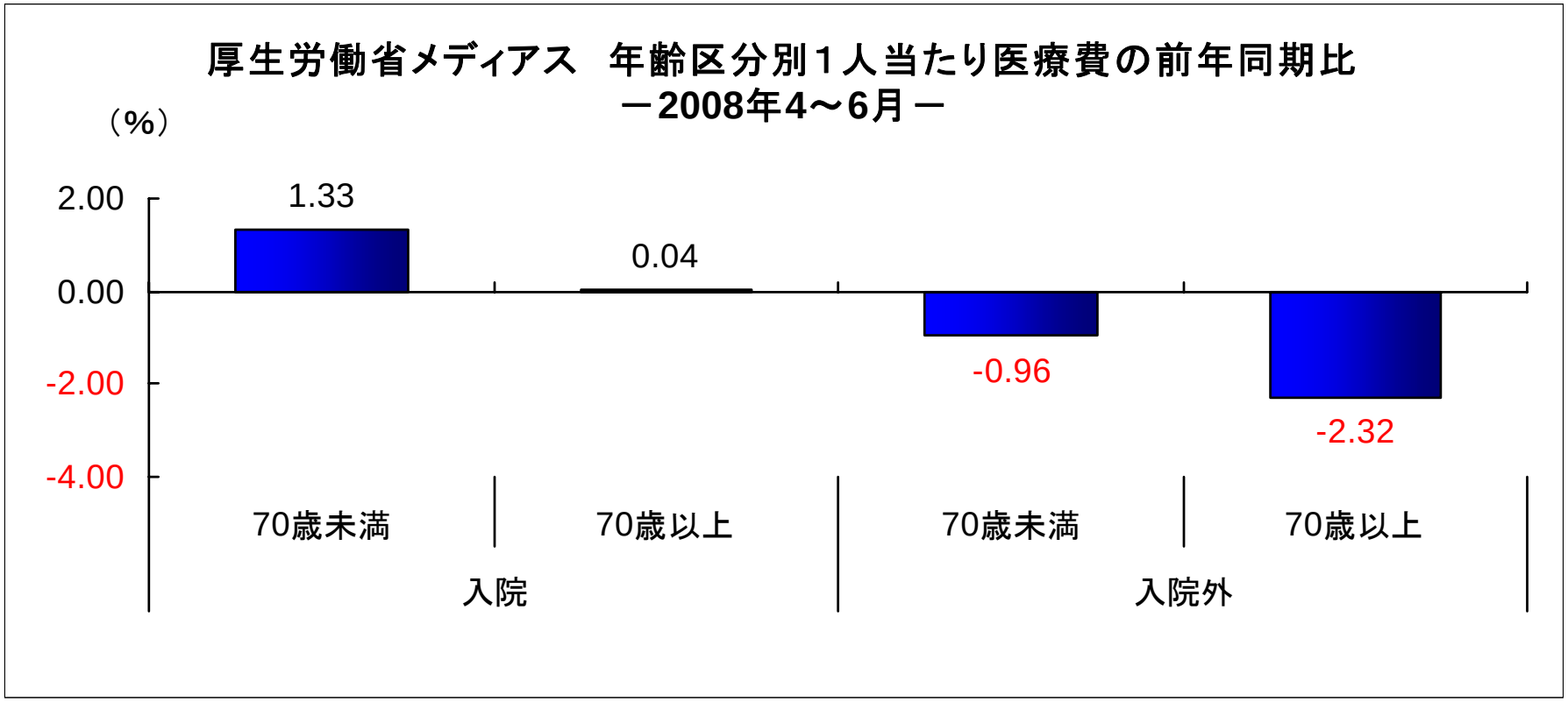


医科医療機関種類別での１施設当たり医療費の伸びを見ると、昨年、今年ともに、大学病院で4%以上伸びている。しかし、公的病院、法人病院では、今年は1%台の伸びに止まり、個人病院、診療所ではマイナスであった。



*（　）内の数字は施設数。厚労省「医療施設動態調査（平成20年6月末概数）」より。

１人当たり医療費については、入院は70歳未満で＋1.33%伸びたが、70歳以上では＋0.04%と微増であった。入院外は、70歳未満、70歳以上ともにマイナスであり、70歳以上では▲2.32%の落ち込みであった。



２００６年度の医療制度改革に際しては、１人当たり医療費の伸びが一般2.1%、高齢者3.2%として、医療費の伸びが推計され、医療費が厳しく抑制された。その結果、現在は高齢者の医療費はまったく伸びていない。